



みたか平和資料コーナーを駅前市政窓口到新設

既存の市役所3階の展示コーナーを拡充するほか、三鷹駅前市政窓口にも新設します。市外からの問い合わせや取材を受けることも多い、貴重な資料をぜひご覧ください。

市役所3階

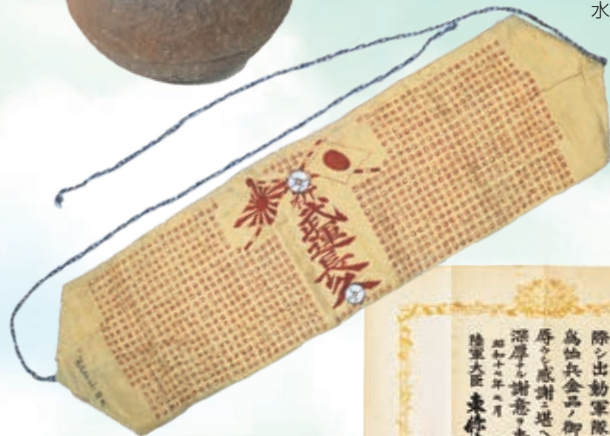
戦時下の生活をテーマに展示します。



鉄瓶



水筒



千人針(出征兵の弾よけのお守り)



陸軍大臣東條英機から贈られた感謝状

三鷹駅前市政窓口

三鷹と関連の深い資料を展示します。



三鷹に投下された
長さ50cmもの焼夷弾



戦闘機のプロペラが
造形された戦時中の灰皿。
三鷹町産業組合との
記載がある



五小で保存されて
いた軍帽



出征軍人に贈られた、「三鷹村」との記載のあるたすき

三鷹駅前市政窓口

下連雀3-24-3 三鷹駅前協同ビル2階
三鷹駅南口のペデストリアンデッキ直結です。



中島飛行機三鷹研究所への空襲を描いた絵



みたかデジタル平和資料館 新たに3編の戦争体験談を公開

紙面に掲載した写真・絵画をはじめ、市民の皆さんから寄贈いただいた戦争関連資料やご本人が語る戦争体験談の映像、太平洋戦争前後の三鷹の歴史、市内に残る戦跡などを記録・保存する特設サイトです。平成28(2016)年の開設以来、失われつつある戦争の「記憶」を未来に残すため、資料を随時拡充しています。

8月から公開された3人の方の戦争体験談を
ダイジェストでご紹介します



学徒勤労働員で 日本無線に通った中学生時代

浅羽晴二さん(94歳)

14歳だった浅羽さんは、三鷹の日本無線に動員されていたときに軍事教練を受けました。その内容は、戦車に見立てたリヤカーに、ほふく前進で近付いてビール瓶をぶつけるというものでした。空襲警報がたびたび鳴り、そのたびに北野の森に逃げたそうです。昭和20年5月25日の山の手空襲で中野にあった自宅が全焼してもなお、日本は必ず勝つと信じる軍国少年だった浅羽さんが、戦争や終戦をどのように感じていたかが伝わってきます。



奇跡が重なり家族と共に生き延びた 東京大空襲

荒川博さん(93歳)



浅草で暮らしていた荒川さんは、昭和20年3月10日の東京大空襲で皆が風下に逃げる中、ふとした直感で風上に避難し、母・妹・祖父と共に生き延びます。翌朝、焼け落ちて土台しか残っていない自宅の防空壕(ごう)で、唯一焼け残っていたのが、英語の参考書でした。一面焼け野原になった街の悲惨な様子や、疎開していた弟と奇跡的に合流したこと、その後の生活、焦げた英語の参考書で勉強して海洋学校に入学したことなどを語っています。

8年にわたる従軍と シベリア抑留の日々

堀江弥太郎さん(103歳)

21歳で召集された堀江さんは、満州(現在の中国東北部)で終戦を迎えた後、ソ連軍によってシベリアへ連行されました。収容所の食事は数人分が一つの洗面器に出され、極寒の外作業では目を拭いていないとまぶたが凍り付いてしまうような辛さでしたが、左官の技能があったため、ほかの強制労働者よりは良い暮らしでした。ようやく日本への帰還がかない、舞鶴港で出されたおにぎりとお味噌汁、梅干しとたくあんは、今も忘れられないおいしさだったと語っています。



戦争の体験談や資料を お寄せください

市では戦争体験をお話しいただける方や戦争にまつわる資料(遺品・写真など)を寄贈またはお貸しいただける方を探しています。心当たりのある方は企画経営課☎0422-29-9032へご連絡ください。